

講義名	リーダーシップ養成B				授業形態	
担当教員	南木 睦彦 / 石黒 太		開講期・曜日・時限		後期 金曜日 4時限	
			単位数	2	履修開始年次	1年生
主題と概要						
リーダーシップ論等を学び、グループで活動することを通して、自らの特徴を生かしてリーダーシップを発揮する力を養う。さらにはその力を、実際に発揮する。まずリーダーシップとは何かを学ぶ。次に講義前半では、2022年度等の「自己発見とキャリア開発A」等の「気づきの教育」を振り返り共有した上で、「Ryuka 祭」の実施と関連して独自の展示物等を作成する。またRyuka祭本書において実際に活動をする。講義後半では、2023年1月頃～2023年度にかけて実施される様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成したりする。その中には2023年度の「自己発見とキャリア開発A」のいくつかのプログラムも含まれている。この科目と共に前期の科目である「リーダーシップ養成A」も受講し、「自己発見とキャリア開発」のCAとしての能力向上をしていただくことも期待している。CAとして登録されない場合でも、本学の様々な活動の場でリーダーシップを発揮することを期待している。						
到達目標						
・自分自身の特徴を生かしたリーダーシップを発揮することができる。 ・「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を、言葉、文章、図表等で表現することができる。 ・Ryuka 祭の実施と関連してリーダーシップを発揮して活動することができる。 ・様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成することができる。						
提出課題						
様々なワークシートを授業内で作成する。 「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を示したRyuka祭と関連した展示物を作成する。 2023年1月頃～2023年度にかけて実施される様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成する。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
提出物については、授業中に講評したり返却したりする。						
評価の基準						
授業への積極的な参加、成果物の出来栄、Ryuka祭と関連して、この科目で身に付けたリーダーシップを発揮したかどうか、を総合して評価する。						
履修にあたっての注意・助言他						
この科目では授業時間外に、Ryuka祭と関連した展示物作成等をグループで実施し、さらにまたRyuka祭本書において実際に活動をする。このため、授業時間外の「学習時間」が相当長くなる。あらかじめ心づもりをした上で受講していただきたい。 また、この科目の受講者には、ぜひ2023年度の「自己発見とキャリア開発」CAとして登録していただきたい。そして、この科目で学んだリーダーシップを生かして、2023年の春休み中に入学前教育の「先輩交流」等の担当や運営補助をお願いしたい。 またさらに2023年度の「自己発見とキャリア開発」のCAとしては、「先輩交流」を担当すると共に、担当教員のクラス運営への協力をお願いしたい。また、一部のプログラムでは、ファシリテーターとして活躍していただく可能性もある。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						
.なし。						

その他		
資料を授業中に配布する		
授業計画		
1 . キックオフ（講義の狙い、アイスブレイク、チーム形成） 2 . リーダシップとは何か 3 . 気づきの教育振り返り・共有 4 . Ryuka祭関連展示立案チーム活動 1 5 . Ryuka祭関連展示立案チーム活動 2、中間発表・相互評価 6 . Ryuka祭関連展示立案チーム活動 3 7 . Ryuka祭関連展示立案チーム活動 4 8 . Ryuka祭展示立案最終発表、Ryuka祭前日～当日予定作成 授業時間外活動：Ryuka祭関連展示前日等準備、来訪者への説明等の活動をする。 9 . Ryuka祭振り返り、各種のプロジェクトの説明、チーム形成 1 0 . プロジェクトごとのチーム活動 1 1 1 . プロジェクトごとのチーム活動 2 1 2 . チーム活動結果中間発表と相互評価 1 3 . プロジェクトごとのチーム活動 3 1 4 . プロジェクトごとのチーム活動 4 1 5 . プロジェクトごとの計画最終発表、全体まとめと今後の予定の確認		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
☐ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐ ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
☐ オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
学期ならびに大学設置基準では1回の講義について4時間の自己学習が必要とされている。 授業時間外に、前半ではRyuka祭関連展示の作成をし、さらにRyuka祭に参加する。後半ではプロジェクトごとに検討・発表の準備をするなど、チームごとに打ち合わせ等の時間が必要になる。このような事情で、授業時間外の学習時間が相当長くなる。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
本学の学生が、卒業時に共通して身につけていることを求められている能力と本科目の到達目標は次のように関連している。 「『自己発見とキャリア開発』等の『気づきの教育』の体験や成果を、言葉、文章、図表等で表現することができる。」という目標は、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の要素である。情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力と関連している。 「自分自身の特徴を生かしたリーダーシップを発揮することができる」「Ryuka 祭の実施と関連してリーダーシップを発揮して活動することができる。」「様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成することができる。」という到達目標は「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」としての能力養成と関連している。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
この授業はグループワークを通じて、受講生間並びに受講生と担当教員間で相互啓発的な形で進めます。		
実務経験の有無及び活用		
備考		
このシラバスは2022年2月に対面授業を前提として書いている。 コロナ禍と関連して、一時的に遠学困難になった学生や、病気や慶弔など理由のある欠席をした学生には、授業の内容によって、オンラインライブで参加していただいたり、あるいは対面授業を録画したものをオンデマンドで提供する予定である。		